

2019年7月7日 マルコ福音書 1:21-28 黄昌性牧師

昔のギリシャにおいて、人の内には良い霊（エルダイモニオン）と悪い霊（ヤコダイモニオン）の両方があり、その両者が戦いその勝敗によってその人が幸せになるか不幸になるかが決まるという考えがあった。マルコ福音書は悔い改めについて説いており、悔い改めて神の国に入る幸せの道へと導いている。今朝の箇所において、イエス・キリストは弟子たち、つまりアンドレ、シモン、ヤコブ、ヨハネとともにカファルナウムに到着し会堂へ入った。そこには律法学者や祭司たちがおり、漁師であった弟子たちが今、キリストとともに会堂で福音を伝えている。近くの町ティベリオスはギリシャ化された地域である一方、カファルナウムは田舎町であった。そのような中でイエス・キリストと弟子たちは律法を中心に教えているユダヤの会堂において福音を伝えるのである。「一行は(21節)」の「一行」はギリシャ語の複数形が用いられている。また、イエスは（彼らと）新共同訳には抜けているが「直ちに」会堂に入って教え始められた。伝道を始めるのは悔い改めの始まりである。22節「人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。」27節「人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」」なぜユダヤのラビたちはイエス・キリストを「権威ある者」と捉えたのであろうか。それは「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい(15節)」と言われたところからであろう。シナゴークとは集まりを意味し、毎土曜日ごとに神様の御言葉に従順する集いである。22節「人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。」27節「人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」」ラビたちはイエス・キリストから何かを感じ取った

のである。汚れた霊に取り憑かれた者が「ナザレのイエスよ、あなたは聖者だ」、「神の者だ」と語ったのを見たからではなく、神様の御言葉がイエス様によって語られた時に「権威がある」とラビたちが感じたのである。イエス・キリストの言葉にデュナミス（力、能力）を感じたのである。「神の国は言葉ではなく力にある（I コリ 4:20）」イエス様の御力をラビたちは見たのである。21 節の汚れた霊に取り憑かれた男と権威あるイエス様との関係はどのようなものであろうか。汚れた霊とは Unclean spirit, Ugly spirit と英訳するが、日本において汚れた霊は何であるかを理解することは難しい。汚れた霊は人間を棲み家とする依存的な霊であろう。そしてこの男に取り憑いていた霊は数が多かった。「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。（24 節）」汚れた霊にイエス様が命じられると、その言う事を聞き、男から出て行き男が癒されたことについて人々は論じている。マタイ福音書、マルコ福音書に癒しについて五度の記載がある。癒しは Therapy、手当て、看病とも言い換えられる。一方で今朝の箇所には汚れた霊が出て行ったと記されており、一般的な癒しと同一とは言えない。何故汚れた霊について記されているのであろうか、それも新しい教えとして記されているのであろうか。礼拝堂、神殿において我々は心で礼拝しプシュケー（霊）により、かつ理性を持って神様を賛美する。マルコ 3:20-30 に記されている汚れた霊、悪霊（ベルゼブル）と、ルカ 11:23 の悪霊は同じく悪霊と訳されているが、原文は異なっている。汚れた霊と悪霊は別の霊である。日本では汚れた霊について受け入れられにくい。病院に行き原因が何であるかを診断される現代において、病の発生が汚れた霊によるとは考えられないのである。しかし聖書は、汚れた霊は存在すると語る。聖書の言葉はそのまま信じるべきである。聖書は世界中で読まれており、その聖書を土台に全世界において礼拝が捧げられているのである。イエス・キリストの権威ある教えにより、御言葉によって神の国が始まってい

る。I コリ 3:16「あなたがたは、自分が神の神殿であり、神の霊が自分たちの内に住んでいることを知らないのですか。」ローマ 8:9「神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。」イエス・キリストを信じる者のうちにキリストの霊が住まわれるのである。身体を持つ我々は、肉、いわば汚れた霊の支配のもとにある。その我々のうちに聖霊が宿り清めて下さるのである。マルコは今朝の箇所においてもまた、先述した通り、イエス様の行動から、直ちに御言葉を伝えなければならないことを語る。21 節「一行はカファルナウムに着いた。イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。」新共同訳では削除されているが、原文では、「ただちに」にあたる言葉が含まれている。ただちにイエス様は、安息日に会堂に入って教え始められたのである。男が発した言葉「ナザレのイエス、かまわないでくれ。我々を滅ぼしに来たのか。正体は分かっている。神の聖者だ。」(24 節) は真実である。男はイエス・キリストとの出会いにおいて真に積極的にイエス様にぶつかっていった。1 つの大きな福音の真の歴史である。イエス・キリストはこの男の言葉だけでなく心を見、そして言われた。「この人の内に取り憑く汚れた霊よ、出て行け」と。目撃したユダヤ人たちは、新しいものを発見し驚いた。そして「権威のある新しい教えだ」と言ったのである。新しい「業だ」と言ったのではない。イエス・キリストを礼拝するとはそう言う事である。キリストの「権威」という真実を隠すことはできないのである。罪と肉の世界と、聖霊の世界は水と油の関係である。キリストの礼拝に汚れた霊は留まることができない。神様のうちには悪の存在がないのである。ガリラヤ伝道は、神様の世界から遠く離れた人々の出来事にあふれている。汚れた霊に取り憑かれた男は「今はイエス・キリストは不要だ」と抵抗したが、イエス・キリストが「汚れた霊は追い出さなくてはならない」と近づく。来週の主日礼拝の箇所であるシモンの姑の癒しもそうであるが、人々の前

で奇跡が起きた。それも、神様の新しい教えが権威を持つことを示しながらである。聖書は一部分だけを見るのではなく、また新約のみ旧約のみでなく、全体を見ることである。そうでないと、理論、理性のみにおける礼拝となり、霊における礼拝とはならないのである。神様の元に戻ることである。モーセも「神の国が近づいた」と時が満ちたことを語った。今は理性と霊によって礼拝を捧げる時である。マルコ 1:22 節、27 節に再度目を留めたい。22 節「人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。」27 節「人々は皆驚いて、論じ合った。「これはいったいどういうことなのだ。権威ある新しい教えだ。この人が汚れた霊に命じると、その言うことを聴く。」

悪霊と汚れた霊は別のものである。悪霊はイエス・キリストを見て悔い改めるであろうか。否、悔い改めない。汚れた霊はイエス様を見て「あなたは聖者だ」と告白しイエス様が命じると男から出て行った。そして汚れた霊が出ていった男は神様を賛美し神の祝福を感謝する人生へと入れられた。我々が正しい人間であるから神様を礼拝するのではなく、神様が神様であるから神様を礼拝するのである。まず自分があり、自分を土台にして礼拝する人もあるだろう。しかし我々は、イエス・キリストの新しい教えに倣って神様を礼拝すべきある。「心が清い人は神を見る（マタイ 5:8）」と言う御言葉の通りに、我々の心が神様に照らされ清くされ、我々の国が、我々すべてが、神様によって祝福されますようにと、常に神様の祝福を求める我々でありたい。汚れた霊に取り憑かれた男が神様によって癒され、神様の祝福を求める者とされたように。